

令和6年3月13日

『福島復興の視点・論点—原子力災害における政策と人々の暮らし—』の出版

本書は、長期にわたる福島復興に関して、福島長期復興政策研究会のメンバーの有志が事故後10年以上経過した時点での視点・論点を提示することで、福島復興に向けた学術的かつ社会的な知的基盤に厚みを加えるとともに、国民の一人ひとりが福島の問題を当事者として経験する手がかりを供することを目的として、2024年2月に出版した書籍である。

本書は、専門も多様な執筆者が福島復興に関する多彩な視点・論点を提示するところに最大の特色を有するものであり、出版を通じて国民の一人ひとりが自分の興味・関心をもとに福島の問題を当事者として経験する手がかりを供するものである。また、本書は、国民全体で福島復興の“出口”を見定めるための視点・論点を多角的に示す学術的にも実践的にも有用な書籍だと考えられる。

1. 本書の背景と目的

2011年3月に発生した福島原発事故とその後の福島復興をめぐるのは、高度に科学的な側面や政治的な側面があって、独特の語りにくい雰囲気漂っている。こうしたこともあって、いつしか福島の問題は福島に閉じられたローカルな問題として矮小化され、多くの国民にとって他人事になってしまっている。しかし、福島の問題は、国民の未来の暮らしにかかわる問題である。国民の一人ひとりが自分の生活のなかに福島の問題の本質を探り当て、その確かな経験をもとに未来の暮らしに向けてどのように応答することができるのか、これが問われているように思う。

福島原発事故が発生してから10年以上が経過したが、福島の原子力災害からの復興という道のりからすれば10年という時間はとても短い。廃炉や放射能汚染への対処に限っても、さらに何十年、何百年という長い時間が要されるだろう。本書は、この長期にわたる福島復興に関して、福島長期復興政策研究会のメンバーの有志が事故後10年以上経過した時点での視点・論点を提示することで、福島復興に向けた学術的かつ社会的な知的基盤に厚みを加えるとともに、国民の一人ひとりが福島の問題を当事者として経験する手がかりを供することを



目的とするものである。

福島長期復興政策研究会とは、福島の長期にわたる復興のあり方や復興政策のあり方を検討することを目的として、2018年5月に設立した任意の研究会である。筆者が同研究会の代表を務めており、設立以来、福島原発事故の発生に伴って避難指示等が発令された原発避難12市町村、すなわち、双葉町、大熊町、富岡町、浪江町、飯舘村、葛尾村、楡葉町、川内村、南相馬市、川俣町、田村市、広野町を主たる対象として、現地視察、研究発表会、ヒアリング調査を1~2回/月のペースで続けてきている。2024年1月現在、職種も専門も多様な133人のメンバーから構成されている（参考資料1を参照）。

本書は、福島の復興に関する多彩な視点・論点を提示する類例のない書籍であると自負している。なお、本書は、福島長期復興政策研究会の書籍としては、『福島復興10年間の検証—原子力災害からの復興に向けた長期的な課題—』（川崎興太編集、丸善出版、2021年）、『福島原発事故と避難自治体—原発避難12市町村長が語る復興の過去と未来—』（川崎興太編集代表、東信堂、2022年）に続く3冊目のものである。あわせて読んでいただければ幸いである。

2. 本書の構成

総ページ数は656ページであり、序を含めて全5部、序章を含めて全43章から構成されている（参考資料2を参照）。

序では、本書の目的と意義について述べている。

第1部では、総論として福島の復興に関する教訓を述べている。

第2部では、福島の政策をめぐる視点・論点について、21章にわたって述べている。

第3部では、福島の人をめぐる視点・論点について、8章にわたって述べている。

第4部では、福島の暮らしと伝承をめぐる視点・論点について、12章にわたって述べている。

3. 本書の意義

本書は、大学教員、コンサルタント、メディア、漫画家、弁護士など、職種が多様で、かつ、都市計画、法学、行政学、財政学、人類学、環境政策、水文地質学など専門も多様な執筆者が福島の復興に関する多彩な視点・論点を提示するところに最大の特色を有するものであり、出版を通じて国民の一人ひとりが自分の興味・関心をもとに福島の問題を当事者として経験する手がかりを供するものである。

原子力災害からの復興は、自然災害からの復興とは異なって、長い歳月が要される。しかし、特別な政策には必ず終期がある。政府は、終期を明示しているわけではないが、福島原発事故が発生してから 20 年後の 2030 年度を 1 つの節目としてとらえているように思われる。こうした原子力災害からの復興の長期性と特別な政策の終期ということを考えあわせた場合、福島原発事故が発生してから 10 年以上が経過したいま、福島復興の“出口”を国民全体で見定めることが重要だと考えられる。本書は、国民全体で福島復興の“出口”を見定めるための視点・論点を多角的に示す学術的にも実践的にも有用な書籍だと考えられる。

本書を出版するにあたり、一般財団法人住総研の 2023 年度出版助成を受けました。記して感謝申し上げます。

(お問い合わせ先)

福島大学 共生システム理工学類・教授 川崎興太

電話：024-548-8283

メール：kawasaki@sss.fukushima-u.ac.jp

参考資料 1

福島長期復興政策研究会のメンバー (2024年1月現在)

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
川崎 興太 (代表)	福島大学	小松 理彦	ハキレキ舎	はっとり いくよ	ほっと岡山
荒木 笙子	東北大学	小森 麻由	エックス都市研究所	服部 圭郎	龍谷大学
安東 量子	福島ダイアログ	古山 周太郎	早稲田大学	林 薫平	福島大学
池田 千恵子	芸術文化観光専門職大学	荻藤 充弘	福島工業高等専門学校	林 美剛	水島地域環境再生財団
石崎 芳行	東日本国際大学福島復興創世研究所	坂地 麻美子	福島大学 (地域未来デザインセンター)	平野 勝也	東北大学
石塚 花音	福島民報社	坂村 圭	東京工業大学	廣井 悠	東京大学
石塚 裕生	東北福祉大学	櫻井 聖子	福島大学 (地域未来デザインセンター)	深谷 雅史	京都大学 (環境省)
磯野 弥生	東京経済大学 (名誉教授)	佐々木 晶二	土地総合研究所	深谷 信介	ノートルダム清心女子大学
磯前 順一	国際日本文化研究センター	佐藤 亜紀	HAMAD00R1 13	福地 慶太郎	朝日新聞社
磯前 礼子	国際日本文化研究センター (共同研究員)	佐藤 孝雄	福島大学 (地域未来デザインセンター)	藤沢 烈	RCF
市古 太郎	東京立大学	里見 喜生	古澤屋	藤室 玲治	福島大学 (地域未来デザインセンター)
伊藤 航	福島大学 (地域未来デザインセンター)	堀崎 由人	防災科学技術研究所	Cécile Brice	フランス国立科学研究所
糸長 浩司	NPO法人EAS (元日本大学)	塩谷 弘康	福島大学	古谷 かおり	結のほじまり
井上 博夫	岩手大学 (名誉教授)	柴崎 直明	福島大学	堀川 直子	早稲田大学 (招聘研究員)
今井 照	元福島大学	島田 早紀	共同通信社	前川 直哉	福島大学
今中 哲二	京都大学	島田 久弥	チャーターリー&カンパニー	前野 有咲	ハキレキ舎
井本 佐保里	日本大学	じんの あい	アトリEMY Color	牧 紀男	京都大学
植田 啓太	東北大学	菅 千都	ライデン大学 (修士課程)	増田 聡	東北大学
牛木 力	東北芸術工科大学	杉田 早苗	岩手大学	益邑 明伸	東京都立大学
姥浦 道生	東北大学	洲崎 玉代	東京大学 (修士課程)	松井 克浩	新潟大学
遠藤 秀文	ふたば、ふたばラレス	鈴木 敦己	福島大学 (東京大学博士課程)	松下 朋子	都市防災研究所
大崎 要一郎	日本放送協会	鈴木 浩	福島大学 (名誉教授)	松本 奈々	MARBLING
大島 卓太	Kokage	関 耕平	島根大学	松本 浩司	日本放送協会
太田 亘	UR都市機構	高木 竜輔	尚絅学院大学	間野 博	県立広島大学 (名誉教授)
大西 隆	東京大学 (名誉教授)	高久 ゆう	環境工ネルギー政策研究所	Elizabeth Maly	東北大学
大森 文彦	東京工業大学	高橋 大就	NoMAラボ	丸谷 耕太	金沢大学
尾崎 修二	毎日新聞社	ダクルス 久美	よりあいコミュニケーション・シャルワークス	御手洗 潤	東北大学
長田 滉央	久米設計	橋 清司	地方公共団体金融機構	葉袋 奈美子	日本女子大学
加賀谷 環	福島大学 (地域未来デザインセンター)	田中 聖也	スポーツ庁 (国土交通省)	宮定 尊	和歌山信愛大学
葛西 優香	関東学院大学	田中 尚人	熊本大学	村上 大和	三菱総合研究所
柏崎 梢	関東学院大学	田中 正人	追手門学院大学	森 優斗	建設技術研究所
片岡 直樹	東京経済大学 (名誉教授)	田村 省二	環境省	門馬 好春	30年中間貯蔵施設地権者会
加藤 孝明	東京大学	田村 泰生	オーブンデータラボ	柳瀬 有志	アルテップ
川澄 厚志	金沢大学	佃 悠	東北大学	山崎 義人	東洋大学
菅野 孝志	全国農業協同組合中央会	坪倉 正治	福島県立医科大学	山田 美香	福島大学 (地域未来デザインセンター)
木野 正登	経済産業省資源工ネルギー庁	寺町 六花	毎日新聞社	山本 大樹	地区防災研究所
木下 勇	大妻女子大学	外岡 豊	埼玉大学 (名誉教授)	除本 理史	大阪立大学
窪田 亜矢	東北大学	土肥 真人	東京工業大学	横塚 有貴	大日本コンサルタント
倉野 泰行	首都高速道路 (国土交通省)	中井 淳一	国土交通省	横山 秀人	いいいたてネットワーク
黒石 いずみ	福島学院大学	中川 智之	アルテップ	吉田 学	HAMAD00R1 13
黒瀬 武史	九州大学	中村 勉	中村勉総合計画事務所	義平 真心	結YUI
Julia Gerstler	東北大学	難波 謙二	福島大学	綿井 稜太	読売新聞社
小泉 秀樹	東京大学	西田 奈保子	福島大学	渡辺 淑彦	浜通り法律事務所
古結 健太郎	共同通信社	Natalia Novikova	玉川大学		
越山 健治	関西大学	萩原 拓也	名城大学		

川崎興太他編『福島復興の視点・論点—原子力災害における政策と人々の暮らし—』の目次

序

序 章 本書の目的と意義／川崎興太

第 1 部 総論

第 1 章 福島復興に関する教訓／川崎興太

第 2 部 福島復興をめぐる視点・論点

第 2 章 原発事故から 11 年、原発災害から生活再建と地域再生に向けて—「県民版原発災害からの復興ビジョン」の提案—／鈴木浩・田村泰生

第 3 章 復興政策の目標とその指標を考える～いつかは来る東日本大震災・福島原子力災害に対する特別措置の終了の判断の一助として～／御手洗潤

第 4 章 非被災地から見た Fukushima 被災地の復興—都市計画分野の視点から—／加藤孝明

第 5 章 災害復興からみた福島復興の特質／越山健治

第 6 章 福島・原発被災地の空間的復興に関するメモ書き—東日本大震災津波被災地における教訓をもとに—／姥浦道生

第 7 章 環境破壊である公害に、どのように対応するのか？—イタイイタイ病被害地域の示唆—／窪田亜矢

第 8 章 放射能汚染長期化と復興核災害リスクを飯館村支援研究から考える（廃炉事業と復興事業の同場同時の矛盾）／糸長浩司

第 9 章 原発は現代社会の縮図—福島とチェルノブイリ／外岡豊
コラム：歴史は玉突き／外岡豊

第 10 章 「失敗の伝承」の失敗—「しない計画」「させない計画」の理論化に向けて—／今井照

第 11 章 福島原発事故をめぐる集団訴訟と復興政策の課題／除本理史

第 12 章 原子力災害の損害賠償面において残された課題／渡辺淑彦

第 13 章 2013～17 避難指示区域の復興の計画に関与して／間野博

第 14 章 避難者の暮らしの復興について／中川智之

第 15 章 避難者向けの住まいの系譜—福島原発避難者向けの復興公営住宅コミュニティ形成の取り組み—／柳瀬有志

第 16 章 広域避難者受入支援の検討—東北圏地域づくりコンソーシアムによる事例集から—／増田聡・高田篤

第 17 章 「復興支援員」制度の運用と展望／長田滉央

第 18 章 コミュニティ再生に向けた行財政支援の現状と課題／関耕平

- 第 19 章 被災者・コミュニティ再生支援—被災者支援総合交付金の成果と課題—／井上博夫
- 第 20 章 選択強いられる『拠点外』住民／松本浩司
- 第 21 章 福島第一原発汚染水の状況と海洋放出問題について／柴崎直明
- 第 22 章 原発立地県以外での原子力防災の取り組み／牧紀男

第 3 部 福島の人をめぐる視点・論点

- 第 23 章 東北大震災前および原発事故後の現地対応の生き証人として／石崎芳行
- 第 24 章 原発被災地における居住地選択の意味—長期化する避難生活のもとで被災者は何を選択し得たのか？—／田中正人
- 第 25 章 再び「ふるさと」を奪われた避難者の「ふるさと」—葛尾村戦後開拓民たちの事例にみる—／堀川直子
- 第 26 章 「復興」の忘れもの—11 年目の原発避難—／松井克浩
- 第 27 章 Human Rights and Housing Recovery for Survivors of the Fukushima Nuclear Accident／Elizabeth Maly
- 第 28 章 <復興>を担う精神／じんのあい
- 第 29 章 原発避難市町村の居住者の言葉から見えてくる現実の断片について／松下朋子
- 第 30 章 福島第一原発事故後の商工事業者の置かれた状況と地域再生における課題／高木竜輔

第 4 部 福島の暮らしと伝承をめぐる視点・論点

- 第 31 章 原発被災集落での歴史・文化継承に向けて—南相馬市小高区での取り組み—／萩原拓也
- 第 32 章 南相馬市での太陽光発電への取り組みが示唆すること／片岡直樹
- 第 33 章 避難自治体の学校の再編について／井本佐保里
- 第 34 章 原発立地地域周辺での社会構造変化について／齊藤充弘
- 第 35 章 ステイグマ化された地域とコミュニティ再生—山谷のまちづくりを例に—／義平真心
- 第 36 章 メディアが「福島を伝える」ということ／大崎要一郎
- 第 37 章 福島第一原子力発電所の原子力災害の伝承とツーリズムの可能性／Julia Gerster
- 第 38 章 ふくしまへのまなざしを創る—スタディツアーの実践から—／石塚裕子
- 第 39 章 福島原子力災害の伝承について／池田千恵子
- 第 40 章 学生とともに考える「脱炭素×復興まちづくり政策」／廣木雅史
- 第 41 章 「ならば」に暮らしてみよう／森優斗
- 第 42 章 原発事故と 10 年の時間経過が示すあれこれ／齊藤充

あとがき／窪田亜矢

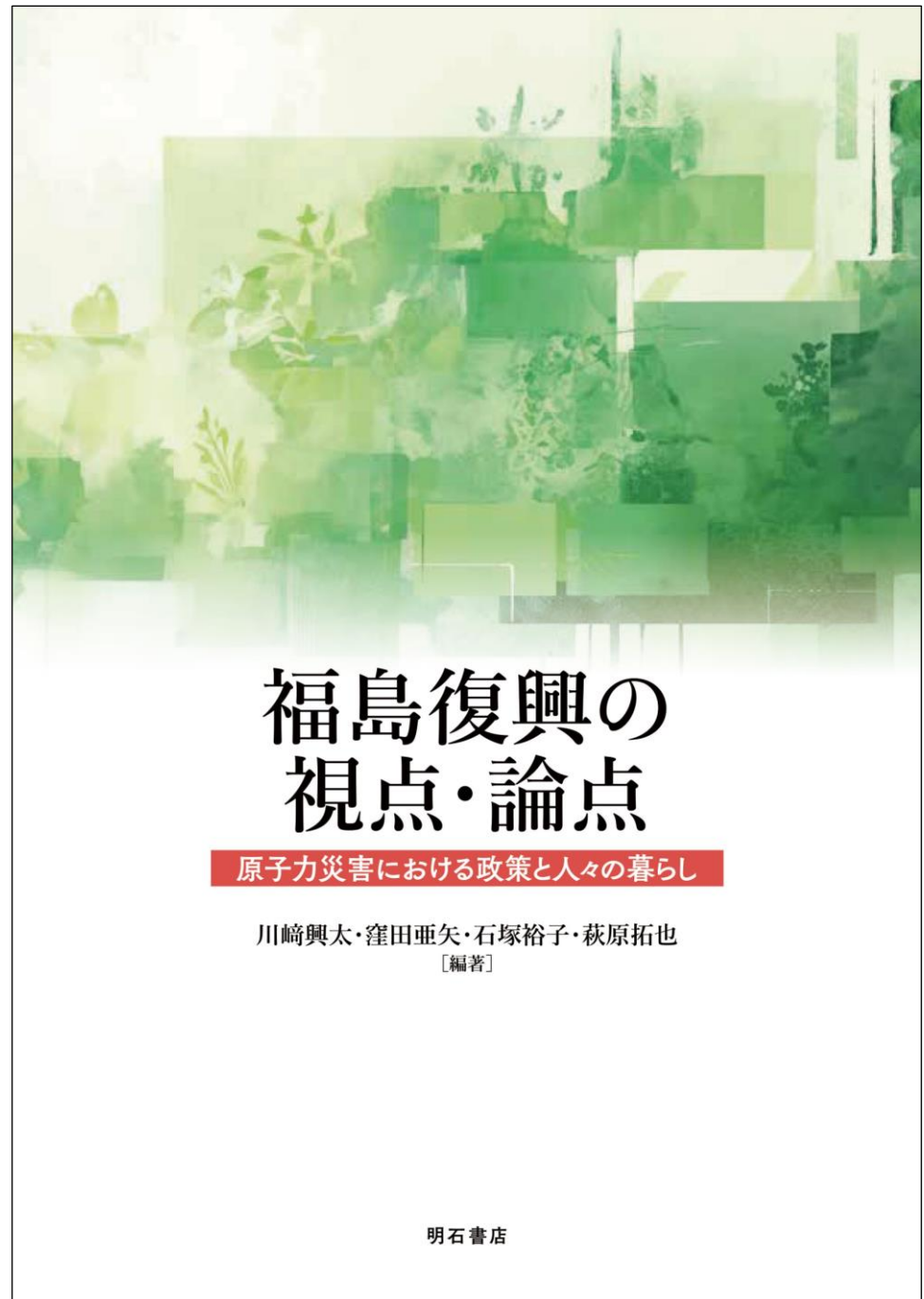
編集者・著者の紹介

第183回 福島大学 定例記者会見

『福島復興の視点・論点』 の出版

2024年3月13日

福島大学
川崎 興太



福島復興の 視点・論点

原子力災害における政策と人々の暮らし

川崎興太・窪田亜矢・石塚裕子・萩原拓也
[編著]

明石書店

1. 本書の背景と目的

- 福島原発事故と福島の復興をめぐるっては、高度に科学的な側面や政治的な側面があって、独特の語りにくい雰囲気
- いつしか福島の問題は福島に閉じられたローカルな問題として矮小化され、多くの国民にとって他人事に
- しかし、福島の問題は、国民の未来の暮らしにかかわる問題
- 国民の一人ひとりが自分の生活のなかに福島の問題の本質を探り当て、その確かな経験をもとに未来の暮らしに向けてどのように応答することができるのかが問われている
- 本書は、長期にわたる福島の復興に関して、福島長期復興政策研究会のメンバーの有志が事故後10年以上が経過した時点での視点・論点を提示することで、福島の復興に向けた学術的かつ社会的な知的基盤に厚みを加えるとともに、国民の一人ひとりが福島の問題を当事者として経験する手がかりを供することを目的とするもの

2. 福島長期復興政策研究会

- 2018年5月に設立
- 川崎興太が代表
- 復興のあり方や復興政策のあり方の検討が目的
- 職種も専門も多様な133人から構成される研究会
- 現地調査や講演会などを1~2回/月のペースで開催
- 研究の成果を出版



2021年1月出版



2022年7月出版

福島長期復興政策研究会のメンバー

氏名	所属
川崎 興太 (代表)	福島大学
荒木 笙子	東北大学
安東 量子	福島ダイアログ
池田 千恵子	芸術文化観光専門職大学
石崎 芳行	東日本国際大学福島復興創世研究所
石塚 花音	福島民報社
石塚 裕子	東北福祉大学
磯野 弥生	東京経済大学 (名誉教授)
磯前 順一	国際日本文化研究センター
磯前 礼子	国際日本文化研究センター (共同研究員)
市古 太郎	東京都立大学
伊藤 航	福島大学 (地域未来デザインセンター)
糸長 浩司	NPO法人EAS (元日本大学)
井上 博夫	岩手大学 (名誉教授)
今井 照	元福島大学
今中 哲二	京都大学
井本 佐保里	日本大学
植田 啓太	東北大学
牛木 力	東北芸術工科大学
姥浦 道生	東北大学
遠藤 秀文	ふたば、ふたばラレス
大崎 要一郎	日本放送協会
大島 草太	Kokage
太田 亘	UR都市機構
大西 隆	東京大学 (名誉教授)
大森 文彦	東京工業大学
尾崎 修二	毎日新聞社
長田 滉央	久米設計
加賀谷 環	福島大学 (地域未来デザインセンター)
葛西 優香	東日本大震災・原子力災害伝承館
柏崎 梢	関東学院大学
片岡 直樹	東京経済大学 (名誉教授)
加藤 孝明	東京大学
川澄 厚志	金沢大学
菅野 孝志	全国農業協同組合中央会
木野 正登	経済産業省資源エネルギー庁
木下 勇	大妻女子大学
窪田 亜矢	東北大学
倉野 泰行	首都高速道路 (国土交通省)
黒石 いずみ	福島学院大学
黒瀬 武史	九州大学
Julia Gerster	東北大学
小泉 秀樹	東京大学
古結 健太郎	共同通信社
越山 健治	関西大学

氏名	所属
小松 理虔	ハキレキ舎
小森 麻由	エックス都市研究所
古山 周太郎	早稲田大学
齊藤 充弘	福島工業高等専門学校
坂地 麻美子	福島大学 (地域未来デザインセンター)
坂村 圭	東京工業大学
櫻井 聖子	福島大学 (地域未来デザインセンター)
佐々木 晶二	土地総合研究所
佐藤 亜紀	HAMAD00RI 13
佐藤 孝雄	福島大学 (地域未来デザインセンター)
里見 喜生	古滝屋
塩崎 由人	防災科学技術研究所
塩谷 弘康	福島大学
柴崎 直明	福島大学
島田 早紀	共同通信社
島田 久弥	チャーリー&カンパニー
じんの あい	アトリエMy Color
菅 千都	ライデン大学 (修士課程)
杉田 早苗	岩手大学
洲崎 玉代	東京大学 (修士課程)
鈴木 敦己	福島大学 (東京大学博士課程)
鈴木 浩	福島大学 (名誉教授)
関 耕平	島根大学
高木 竜輔	尚絅学院大学
高久 ゆう	環境エネルギー政策研究所
高橋 大就	NoMAラボ
ダクルス 久美	よりあいコミュニティソーシャルワークス
橘 清司	地方公共団体金融機構
田中 聖也	スポーツ庁 (国土交通省)
田中 尚人	熊本大学
田中 正人	造手門学院大学
田村 省二	環境省
田村 泰生	オープンデータラボ
佃 悠	東北大学
坪倉 正治	福島県立医科大学
寺町 六花	毎日新聞社
外岡 豊	埼玉大学 (名誉教授)
土肥 真人	東京工業大学
中井 淳一	国土交通省
中川 智之	アルテップ
中村 勉	中村勉総合計画事務所
難波 謙二	福島大学
西田 奈保子	福島大学
Natalia Novikova	玉川大学
萩原 拓也	名城大学

氏名	所属
はっとり いくよ	ほっと岡山
服部 圭郎	龍谷大学
林 薫平	福島大学
林 美帆	水島地域環境再生財団
平野 勝也	東北大学
廣井 悠	東京大学
廣木 雅史	京都大学 (環境省)
深谷 信介	ノートルダム清心女子大学
福地 慶太郎	朝日新聞社
藤沢 烈	RCF
藤室 玲治	福島大学 (地域未来デザインセンター)
Cécile Brice	フランス国立科学研究センター
古谷 かおり	結のはじまり
堀川 直子	早稲田大学 (招聘研究員)
前川 直哉	福島大学
前野 有咲	ハキレキ舎
牧 紀男	京都大学
増田 聡	東北大学
益邑 明伸	東京都立大学
松井 克浩	新潟大学
松下 朋子	都市防災研究所
松本 奈々	MARBLING
松本 浩司	日本放送協会
間野 博	県立広島大学 (名誉教授)
Elizabeth Maly	東北大学
丸谷 耕太	金沢大学
御手洗 潤	東北大学
葉袋 奈美子	日本女子大学
宮定 章	和歌山信愛大学
村上 大和	三菱総合研究所
森 優斗	建設技術研究所
門馬 好春	30年中間貯蔵施設地権者会
柳瀬 有志	アルテップ
山崎 義人	東洋大学
山田 美香	福島大学 (地域未来デザインセンター)
山本 大樹	地区防災研究所
除本 理史	大阪公立大学
横塚 有貴	大日本コンサルタント
横山 秀人	いいたてネットワーク
吉田 学	HAMAD00RI 13
義平 真心	結YUI
綿井 稜太	読売新聞社
渡辺 淑彦	浜通り法律事務所

3. 本書の構成

●総ページ数は656ページ

●序を含めて全5部、序章を含めて全43章から構成

序

序章 本書の目的と意義／川崎興太

- 第1部 総論
第1章 福島復興に関する教訓／川崎興太
- 第2部 福島の政策をめぐる視点・論点
第2章 原発事故から11年、原発災害から生活再建と地域再生に向けてー「県民版 原発災害からの復興ビジョン」の提案ー／鈴木浩・田村泰生
第3章 復興政策の目標とその指標を考えるーいつかは来る東日本大震災・福島原子力災害に対する特別措置の終了の判断の一助としてー／御手洗潤
第4章 非被災地から見たFukushima被災地の復興ー都市計画分野の視点からー／加藤孝明
第5章 災害復興からみた福島復興の特質／越山健治
第6章 福島・原発被災地の空間的復興に関するメモ書きー東日本大震災津波被災地における教訓をもとにー／姥浦道生
第7章 環境破壊である公害に、どのように対応するのか？ーイタイイタイ被害地域の示唆ー／窪田亜矢
第8章 放射能汚染長期化と復興核災害リスクを飯館村支援研究から考える（廃炉事業と復興事業の同場同時の矛盾）／糸長浩司
第9章 原発は現代社会の縮図ー福島とチェルノブイリ／外岡豊
コラム：歴史は玉突き／外岡豊
第10章 「失敗の伝承」の失敗ー「しない計画」「させない計画」の理論化に向けてー／今井照
第11章 福島原発事故をめぐる集団訴訟と復興政策の課題／除本理史
第12章 原子力災害の損害賠償面において残された課題／渡辺淑彦
第13章 2013～17避難指示区域の復興の計画に関与して／間野博
第14章 避難者の暮らしの復興について／中川智之
第15章 避難者向けの住まいの系譜ー福島原発避難者向けの復興公営住宅コミュニティ形成の取り組みー／柳瀬有志
第16章 広域避難者受入支援の検討ー東北圏地域づくりコンソーシアムによる事例集からー／増田聡・高田篤
第17章 「復興支援員」制度の運用と展望／長田滉央
第18章 コミュニティ再生に向けた行財政支援の現状と課題／関耕平
第19章 被災者・コミュニティ再生支援ー被災者支援総合交付金の成果と課題ー／井上博夫
第20章 選択強いられる『拠点外』住民／松本浩司
第21章 福島第一原発汚染水の状況と海洋放出問題について／柴崎直明
第22章 原発立地県以外での原子力防災の取り組み／牧紀男
- 第3部 福島の人をめぐる視点・論点
第23章 東北大震災前および原発事故後の現地対応の生き証人として／石崎芳行
第24章 原発被災地における居住地選択の意味ー長期化する避難生活のもとで被災者は何を選択し得たのか？ー／田中正人
第25章 再び「ふるさと」を奪われた避難者の「ふるさと」ー葛尾村戦後開拓民たちの事例にみるー／堀川直子
第26章 「復興」の忘れものー11年目の原発避難ー／松井克浩
第27章 Human Rights and Housing Recovery for Survivors of the Fukushima Nuclear Accident／Elizabeth Maly
第28章 <復興>を担う精神／じんのあい
第29章 原発避難市町村の居住者の言葉から見えてくる現実の断片について／松下朋子
第30章 福島第一原発事故後の商工事業者の置かれた状況と地域再生における課題／高木竜輔
- 第4部 福島の暮らしと伝承をめぐる視点・論点
第31章 原発被災集落での歴史・文化継承に向けてー南相馬市小高区での取り組みー／萩原拓也
第32章 南相馬市での太陽光発電への取り組みが示唆すること／片岡直樹
第33章 避難自治体の学校の再編について／井本佐保里
第34章 原発立地地域周辺での社会構造変化について／齊藤充弘
第35章 ステイグマ化された地域とコミュニティ再生ー山谷のまちづくりを例にー／義平真心
第36章 メディアが「福島を伝える」ということ／大崎要一郎
第37章 福島第一原子力発電所の原子力災害の伝承とツーリズムの可能性／Julia Gerster
第38章 ふくしまへのまなざしを創るースタディツアーの実践からー／石塚裕子
第39章 福島原子力災害の伝承について／池田千恵子
第40章 学生とともに考える「脱炭素×復興まちづくり政策」／廣木雅史
第41章 「ならば」に暮らしてみよう／森優斗
第42章 原発事故と10年の時間経過が示すあれこれ／齊藤充
- あとがき／窪田亜矢
- 編集者・著者の紹介

4. 本書の意義

- 本書は、大学教員、コンサルタント、メディア、漫画家、弁護士など、職種が多様で、かつ、都市計画、法学、行政学、財政学、人類学、環境政策、水文地質学など専門も多様な執筆者が福島復興に関する多彩な視点・論点を提示するところに最大の特色を有するものであり、出版を通じて国民の一人ひとりが自分の興味・関心をもとに福島の問題を当事者として経験する手がかりを供するもの
- 原子力災害からの復興の長期性と特別な政策の終期ということを考えあわせた場合、福島原発事故が発生してから10年以上が経過したいま、福島復興の“出口”を国民全体で見定めることが重要だと考えられ、本書は、国民全体で福島復興の“出口”を見定めるための視点・論点を多角的に示す学術的にも実践的にも有用な書籍